

LWB Commentary & Communication System クイック・ガイド



(詳しくは同システム取扱説明書第 1.1 版以降をご覧ください)

LWB コメンタリー・システムはコメンタリー・ボックスと COMM モジュールとで構成されており、シンプルかつフレキシブルにコメンタリー・システムを構築できます。このクイック・ガイドではルーティング設定の基本を解説します。より詳しい操作方法は LWB コメンタリー&コミュニケーション・システムの取扱説明書（以下「取説」と表記）を併せてご覧ください。

このガイドでは 1 枚の COMM モジュールと 3 台のコメンタリー・ボックスをループ接続した場合を想定しています（取説 18 ページ）。

ここで重要なのはルーティングのプランニングを事前に作成することです。このプランニングができていれば LWB コメンタリー・システムの設定も後からの修正もスムーズに行うことができます。

ここでは以下のようなルーティング・プランを考えてみます。

BOX 1 アナウンサー <Unit ID 1>				
本線 MIC OUT ルーティング番号 [1]				
	1	2	3	4
	送り返し	指令系		Air
Group Routing		L1		
BT in [in]		12		
Moni 1 [01]	41	22		45
Moni 2 [02]		32		
Moni 3 [03]				
Moni 4 [04]				
Moni 5 [05]				
Moni 6 [06]				
Moni 7 [07]				
Moni 8 [08]				

BOX 2 解説者 1 <Unit ID 2>				
本線 MIC OUT ルーティング番号 [2]				
	1	2	3	4
	送り返し	指令系		Air
Group Routing		L1		
BT in [in]		22		
Moni 1 [01]	41	12		45
Moni 2 [02]		32		
Moni 3 [03]				
Moni 4 [04]				
Moni 5 [05]				
Moni 6 [06]				
Moni 7 [07]				
Moni 8 [08]				

BOX 3 解説者 2 <Unit ID 3>				
本線 MIC OUT ルーティング番号 [3]				
	1	2	3	4
	送り返し	指令系		Air
Group Routing		L1		
BT in [in]		32		
Moni 1 [01]	41	12		45
Moni 2 [02]		22		
Moni 3 [03]				
Moni 4 [04]				
Moni 5 [05]				
Moni 6 [06]				
Moni 7 [07]				
Moni 8 [08]				

解りやすいルーティング番号の割り振り方

ルーティング番号はある法則性を持たせると管理しやすくなります。1つの例として：

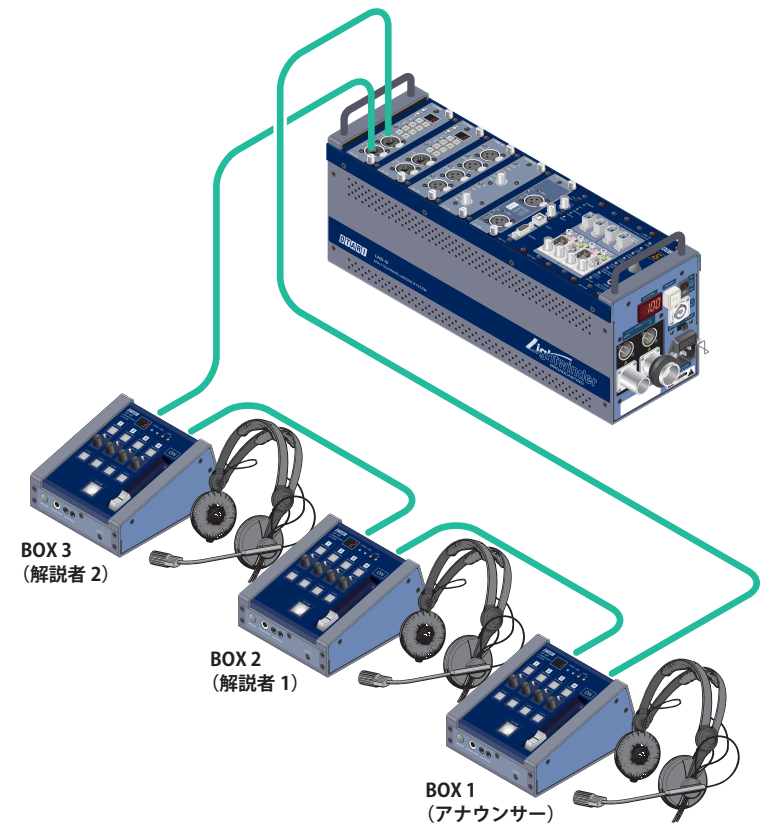
BOX 1 の本線 MIC OUT は 1 番，BT の CH1 は 11 番，CH2 は 12 番，CH3 は 13 番，CH4 は 14 番

BOX 2 の本線 MIC OUT は 2 番，BT の CH1 は 21 番，CH2 は 22 番，CH3 は 23 番，CH4 は 24 番

BOX 3 の本線 MIC OUT は 3 番，BT の CH1 は 31 番，CH2 は 32 番，CH3 は 33 番，CH4 は 34 番

のようにします。

この方法ではルーティング番号でどのボックスの何の回線かの推測が表を見なくても行えます。



コメンタリー・ボックスの接続とマイクの設定

以下の例ではアナウンサー・マイクの本線出力ルーティングとヘッドアンプの設定を行います。
ルーティング・プランを確認しながら ...

- ① COMM. モジュールの ID ▲/▼ ボタンを押して設定するユニットの ID 番号 [1] を選択する。
- ② COMM. モジュールの CH ボタンを押す。
- ③ LWB コントロール・モジュールの ROUTING スイッチを押す。
現在のルーティング番号が表示されます。
- ④ ロータリー・エンコーダーを回してルーティング番号を [1] に変更する。
- ⑤ 再度 ROUTING スイッチを押す。

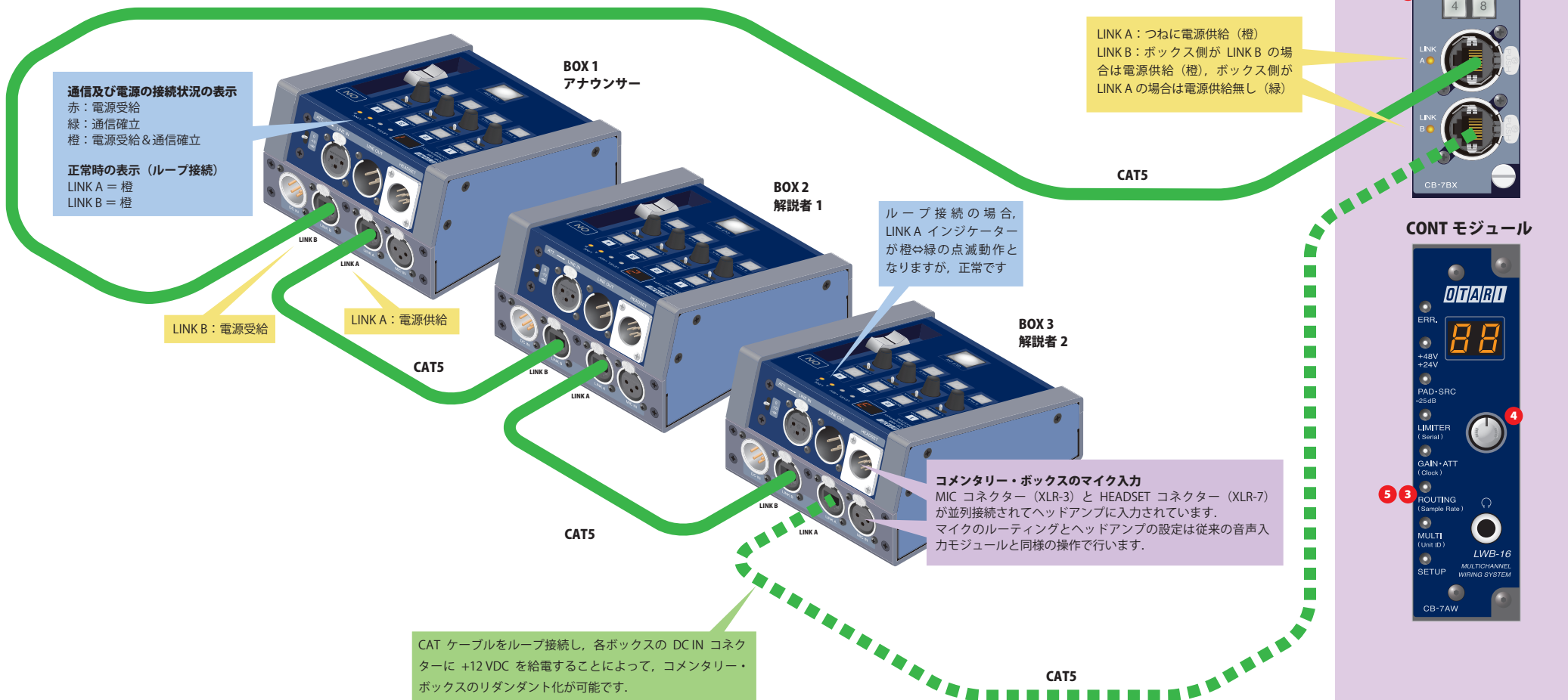
ヘッドアンプ・パラメーターの設定

左記ステップ ② に続いて

- ・ファンタム電源のオン/オフ=+48V スイッチを ON/OFF
- ・リミッターのオン/オフ=LIMITER スイッチを ON/OFF
- ・ゲイン調整=GAIN-ATT スイッチを ON→ロータリー・エンコーダーを回す。

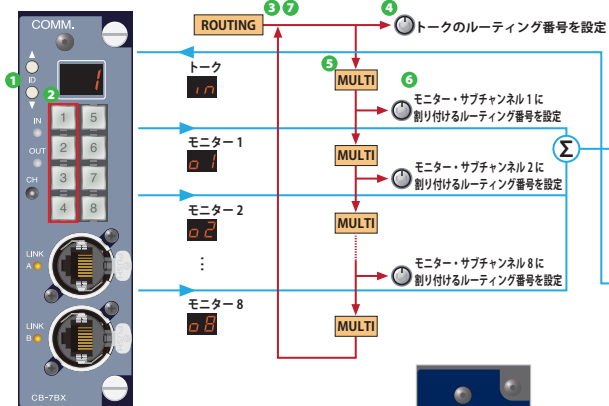
解説者 1, 2 の設定も同様に行います。

ユニット ID はそれぞれ 2, 3, ルーティング番号は 2, 3 とします。



コメンタリー・ボックスの B.TALK 及び MONITOR 設定

COMM. モジュール

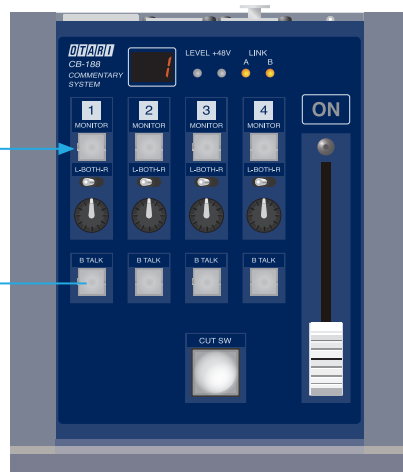


CONT モジュール



設定中のトーク / モニター番号の表示
設定中に SETUP スイッチを押すと In/Out 番号が表示されます。

in → out1 → out2 ... out8
(トーク) ← (モニター)



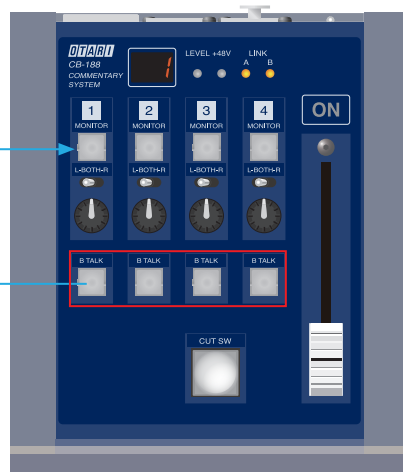
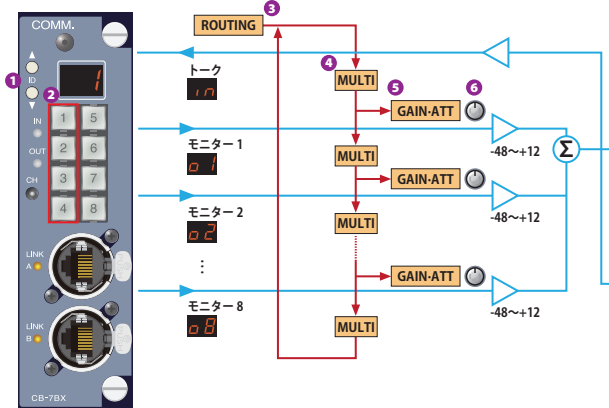
アナウンサー・マイクを例に B.TALK とモニターを設定する <取説 30 ページ>
ルーティング設定

- 設定するコメンタリー・ボックスのユニット ID 番号 [1] を選択する。
- 設定するチャンネル [1] を選択する。
- ROUTING スイッチを押す。
現在のルーティング番号が表示されます。
- ロータリー・エンコーダーを回してルーティング番号を [11] に設定する。
- モニター設定
- 続いて MULTI スイッチを押す。
モニター 1・サブチャンネル 1 (01) の設定が選択されます。
- ロータリー・エンコーダーを回してモニター 1・サブチャンネル 1 に割り付けるソースのルーティング番号 [41] (送り返し) を設定する。
以下、MULTI スイッチを押すたびにサブチャンネル番号が 1 ずつ増え、各サブチャンネル・ソース (02 ~ 08) が選択されます。
- 再度 ROUTING スイッチを押す。
指令系は [2] を、Air は [4] を選んで、同様に手順 2 以降の操作を行います。

コメンタリー・ボックス

B.TALK: [1][2][3][4] の各チャンネル (図中の赤枠) から他のボックスにトーク (B.T) が可能。他の音声入力モジュールと同様に、ルーティング番号を割り付ける。
MONITOR: [1][2][3][4] の各チャンネルにそれぞれ 8 つのサブチャンネル (1~8) を割り付け可能。各サブチャンネルに目的となるソースのルーティング番号を設定する。
注意: COMM. モジュールに対してトークが IN, モニターが OUT となる。

COMM. モジュール



応用編: モニター・チャンネルに複数ソースがルーティングされている場合のクロスポイント・ゲイン設定
<取説 34 ページ>

- 設定するコメンタリー・ボックスのユニット ID 番号を選択する。
- 設定するチャンネルを選択する ([1] ~ [4])。
- ROUTING スイッチを押す。
- MULTI スイッチを押す。
モニター 1・サブチャンネル 1 (01) の設定が選択されます。
- GAIN-ATT スイッチを押す。
現在のレベル設定が表示されます。
- ロータリー・エンコーダーを回してゲインを調整する。
以下、MULTI スイッチを押すたびにサブチャンネル番号が 1 ずつ増え、各サブチャンネル・ソース (02 ~ 08) が選択されます。

インカム系のルーティングで便利な「グループ・ルーティング」機能

COMM. モジュール



グループ・ルーティングを設定



CONT モジュール



2W, 4W のインカム・パーティーラインを組む場合はグループ・ルーティングを利用します。

<取説 32 ページ>

- 1 COMM. モジュールで、設定するコメントリー・ボックスの ID 番号 [1] を選択する。
- 2 設定するチャンネル [2] を選択する。
- 3 LWB のコントロール・モジュールの ROUTING スイッチを約 2 秒長押しする。
同スイッチが点灯し、現在のルーティング番号が表示されます。
- 4 ロータリー・エンコーダーを回してグループ・ルーティング番号を [L1] に設定する。
- 5 再度 ROUTING スイッチを押す。

同様にして 2W 及び 4W インカム・モジュールも ROUTING スイッチを長押しして、グループ・ルーティング番号 [L1] に設定します。

これでグループ・ルーティング番号 [L1] に接続された回線は同じパーティーラインに組まれます。

※ グループ・ルーティングの場合、入力系 (B.TALK 等) のルーティング番号があらかじめ設定されていないと、自動的に設定されます。解りやすい運用には、あらかじめ入力系 (B.TALK 等) のルーティング番号を設定することをお勧めします。